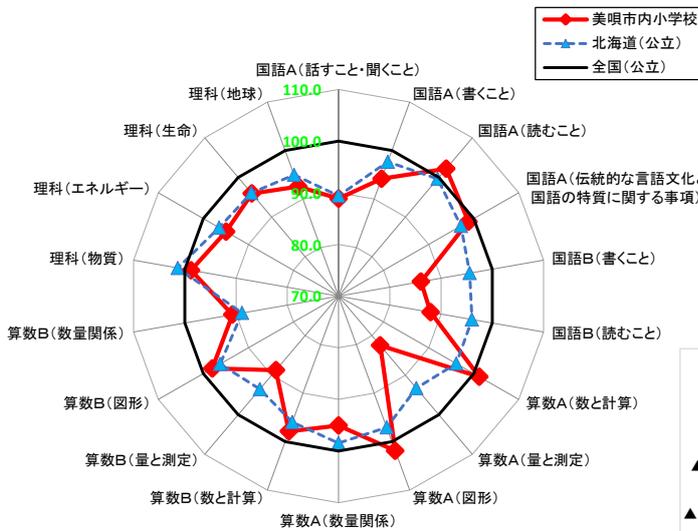


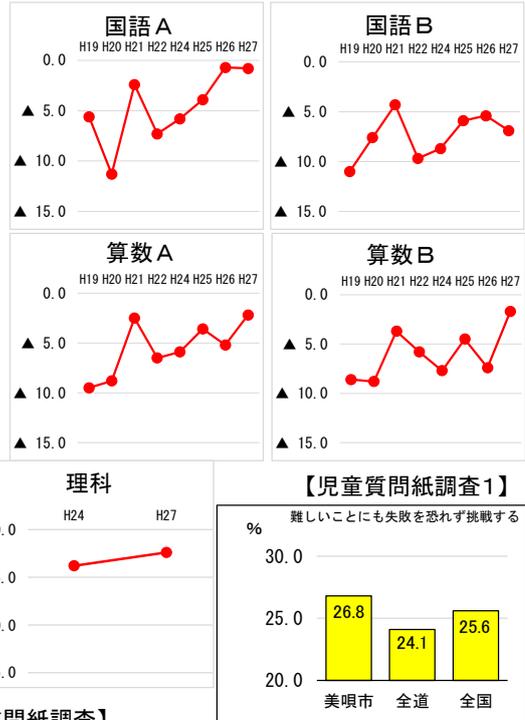
■美唄市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:5、児童数:153名)

【教科全体の状況】

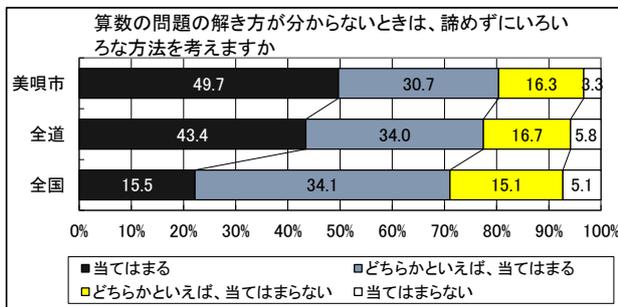
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



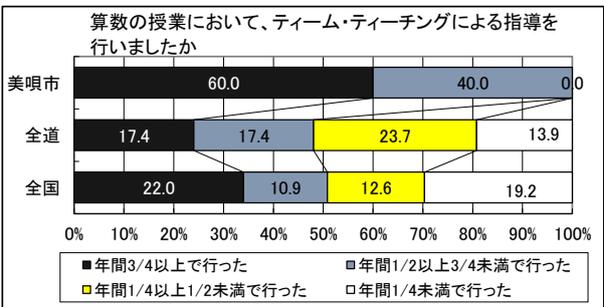
【平均正答率の全国との差の推移】



【児童質問紙調査2】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「読むこと」で全国及び全道を上回っている。 ○ 算数Aでは「数と計算」、「図形」で全国及び全道を上回っている。 ○ 理科では「物質」で他領域と比べて全国に最も近くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数の授業において、チーム・ティーチングによる指導をよく行った結果、児童が算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるようになり、算数Aの「数と計算」、「図形」において、全国及び全道を上回ったと考えられる。 ○ 平均正答率の推移については、学校が組織的にきめ細かな指導に取り組んだ結果、児童が学習で難しいことにも失敗を恐れず挑戦するようになり、算数A・B、理科で全国との差が縮まってきたと考えられる。
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「算数の授業において、チーム・ティーチングによる指導を行いましたか」という質問に対して、「年間3/4以上で行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。 	

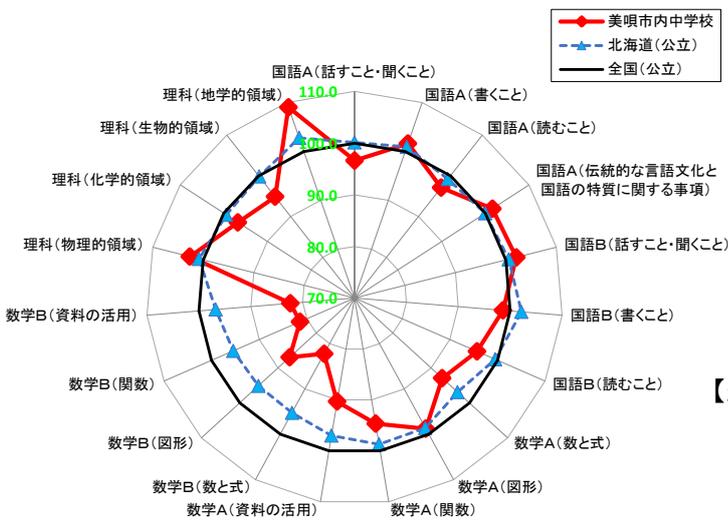
【美唄市の学力向上策】

- ◎ 市として学力向上を重点的に取り組む事項とし、「確かな学力育成プラン」を作成
- ◎ 学力向上に向けて、習熟度別学習、複式授業学習支援員の配置、ICTの活用などを推進
- ◎ 家庭学習の手引を作成し、下位層の底上げに活用

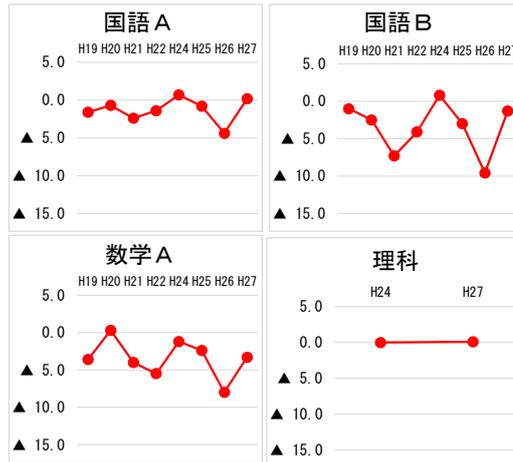
■美唄市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4、生徒数:174名)

【教科全体の状況】

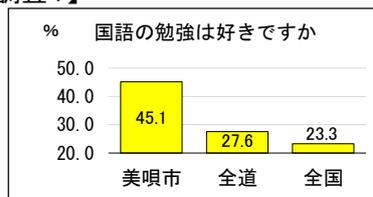
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



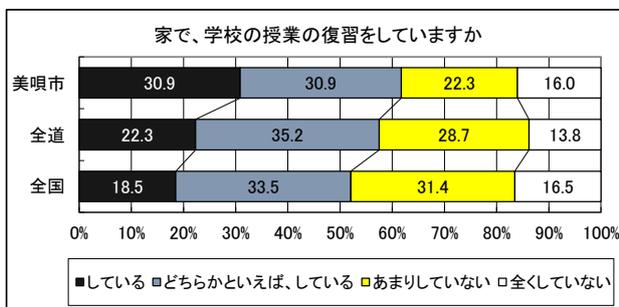
【平均正答率の全国との差の推移】



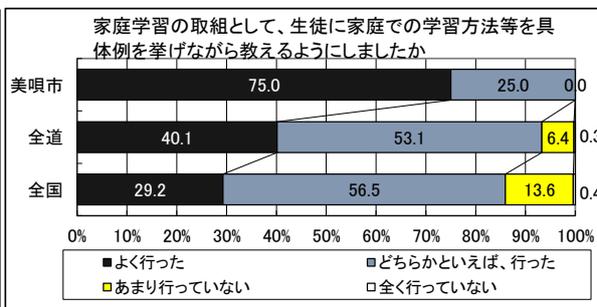
【生徒質問紙調査1】



【生徒質問紙調査2】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語Aでは「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語Bでは「話すこと・聞くこと」で全国及び全道を上回っている。 ○ 数学Aでは「図形」で全道を上回っている。 ○ 理科では「物理的領域」、「地学的領域」で全国及び全道を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした結果、生徒に家庭での学習習慣が身に付き、国語Aの「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語Bの「話すこと・聞くこと」、理科の「物理的領域」、「地学的領域」で、全国及び全道を上回ったと考えられる。 ○ 平均正答率の推移については、授業改善と家庭での学習方法等の指導を継続的に行った結果、生徒が国語の勉強を好きになり、国語A・Bにおいて全国とほぼ同様になったと考えられる。
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家で、学校の授業の復習をしていますか」という質問に対して、「している」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている。 	
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っている。 	

【美唄市の学力向上策】

- ◎ 市として学力向上を重点的に取り組む事項とし、「確かな学力育成プラン」を作成
- ◎ 学力向上に向けて、習熟度別学習、複式授業学習支援員の配置、ICTの活用などを推進
- ◎ 家庭学習の手引を作成し、下位層の底上げに活用